

坂の上通信

令和五年二月一日
広島市立美鈴が丘高等学校
新聞文化部(四〇三演習室)

全国総文出場決定

新聞・書道三年連続の快挙

令和4年12月17日に行われた第20回広島県高等学校新聞交流会・第7回新聞コンクールに、新聞文化部が参加した。コンクールで優秀賞を受賞し、今年夏に行われる全国高等学校総合文化祭がこしま大会新聞部門への出場が決定した。

交流会ではまず、NHK広島拠点放送局の秦康恵記者による講演が行われた。講演の中で秦さんはインタビュー

の真髓や記事を作る過程でのポイントなどについて語った。また、SPD(感情情報処理障害)がある当時小学



新聞交流会で学んだことを生かして取材する新聞部員たち

学校の「顔」にインタビュー



今回は、音楽の藤井先生にインタビューを行った。

先生になろうと思ったきっかけは？

「高校生の時に魅力的な先生に出会い、その人のようになりたいと思ったこと。また、授業で『ウエスト・サイド・ストーリー』というミュージカルを見て感銘を受けたことです。」

美高生の印象と一言

「友達思いな子が多く、アドバイスをされたときに素直に受け取っていて良いと思います。映画や音楽を知ることが文化を知ることと同じだと思うので、学生のうちにいろんな作品に触れて経験や知識を培ってほしいです。」

部活動紹介



表彰を受ける部長

今回紹介するのは女子テニス部である。現在、1年生7人、2年生5人の計12人で活動しています。普段は毎日何かしらの筋トレをしたり、ラリーや試合形式での練習をします。基礎と発展を続けています。

口県で行われた中国高等学校新人テニス大会に、ダブルスで出場した、坂田綾子さんと平尾志帆さんにお話を伺いました。



練習に励む女子テニス部

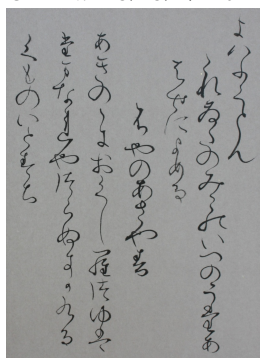
明るい美鈴が丘を目指して

12月中、美鈴が丘公民館では、美高の華道部、書道部、美術部の作品が展示された。館長の河部哲郎さんにお話を伺った。

書道部からは一名出場

「準備を整えて臨みたい」

1年2組の竹林美保さんが、同じく夏に行われる全国高等学校総合文化祭がこしま大会書道部門に出場することが決まった。竹林さんに意気込みを語ってもらった。



出場を決めた竹林さんの作品

展示に至る経緯について、「子供たちの頑張りを知らせてほしい」と思い、展示することにしました。作品をみた人の励みにもなれたら良いと思います。」と語った。公民館を訪れた人からは、上手といった声をよく聞くという、「うまく表現している地域みんなの励みとなっています。このことを次の作品作りにも活かしてください。」と激励の言葉をいただいた。

地域に近い公民館として、ATM(A明る、T楽しく、M前向き)をモットーに活動している。家にこもりがちになる子育て世代のコミュニケーション作りを目的とした、子供といっしょに参加できる「おんぶカフェ」第3弾の、『子育てママのための時短』セミナー「講座」や子ども食堂では、企業・団体等と連携し活動している。また、子供たちがデザインしたイルミネーションの作成や、美高のあすなろ会も、ボランティアでお菓子教室の手伝いをするなど、大人も子どもも地域の活性化のためにつながることができるところとなっている。

美鈴が丘は小中高が集まっている地域です。公民館も地域の一部であり、集い、学び、結ぶ場所です。なので、もっと日常的に色んな形で交流をしましょう。それから、健康でいてほしいです。子供が元気だと大人も元気になります。それが地域全体の元気にも繋がります。一緒に明るい町を作りましょう。」



展示された美高生の作品

美・鈴・鈴・鈴

今回は公民館の役割について調べてみた。▼社会教育法における公民館に関する主な規定の第二十条に、「公民館は、市町村その他一定区域内の住民のために、實際生活に促す教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もつて住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。」と記載されている。つまり、地域住民のために社会教育に推進する拠点施設として中心的な役割を果たしているということだ。▼しかし、美鈴が丘公民館の館長である河部さんも言うように公民館は用事がなくても気軽に訪れてほしいのだ。地域の方と交流したり、地域のことをより詳しく知ることができると。また、公民館は私たちが考えているよりもより多くのさまざまな取り組みをしている。常に新しいものを取り入れ、地域のことを考えている公民館。ぜひ立ち寄ってみてほしい。

編集後記

今年も総文への出場が決まりました。一緒に鹿児島に行く仲間を募集しています。ぜひ新聞文化部へ。